

〔倭訓栞前編三〕いはし 石橋と萬葉集にみゆ、久米のいはし、陸奥の磐梯山などはた、一ツの磐石なり、河内國平石村の山上にも石橋あり實に天造の奇巖なり。

〔播磨風土記印南郡〕益氣里上中 所以號宅者、大帶日子命造御宅於此村、故曰宅村○中 有石橋、傳云、

〔晴富宿禰記〕文明十二年二月廿八日己卯、前栽石橋、自妙連寺被惠之、今日立之、

〔見聞雜記〕二月不詳 九日、千手堂ノ前ノ石橋、乘珍法橋敬神ニ渡、抑此石ハ、无量光院ノ唐門ノ

カライシキ也、

### 〔應仁記〕相國寺炎上之事

相國寺ノ略 中 總門ヲ堅メ、石橋ヨリ攻入敵ヲ請テ、略 下

〔雍州府志八古蹟〕石橋 石橋處々有之、其内不謂稱號、專稱石橋者、相國寺門前之橋也、

〔山城名勝志二洛湯〕石橋今接有烏丸東、今 石橋出川通北石橋町

〔水戸温古錄〕水戸様御庭小石川上

石橋舜水差圖ヲ以、駒慎嘉兵衛是作る、大震に而も崩れずまた橋杭なし

〔西遊雜記十三〕長崎は石の至て自由の地にして、石橋いろくに金し能橋も有、

〔武江年表十一〕慶應二年十一月、淺草寺町菊屋橋を石橋に造り改む、

〔新撰字鏡〕砌且計、千計二反、去、限 磬丁剉反、登、也、伊志波志、伊志波志、

〔書言字考節用集一乾坤〕懸磴シカン 文選註、石橋也、砧略

〔倭名類聚抄十道路具〕石橋 爾雅注云、砧音江、和名、石橋也、

〔爾雅註疏四釋宮〕石杠、謂之倚、註聚石水、中以爲步渡、也、孟子曰、歲十一月徒杠成、或曰、今之石橋、疏中略石杠、一名倚、郭步橋也、廣雅云、倚步橋也、一云、或曰、今之石橋、疏